



農業と福祉がつながって富山を元気に!

農福連携
パターン別事例
12選



NOUFUKURENKEI
農 福

連携
ガイドブック
TOYAMA
2020

●農福連携についてのお問い合わせ先

富山県厚生部障害福祉課 自立支援係

富山市新総曲輪1番7号

TEL 076-444-3212

富山県農林水産部農業経営課 経営体支援係

富山市桜橋通り5番13号 富山興銀ビル10階

TEL 076-444-3266

●マッチングに関する相談先

富山県社会就労センター協議会

富山市五福 474 番地 2

社会福祉法人富山県精神保健福祉協会 ゆりの木の里内

TEL 076-442-2430

【発行】

富山県厚生部障害福祉課

富山市新総曲輪1番7号 (富山県庁本館1階) TEL 076-444-3212

2020年3月発行





はじめに

農福連携は、障害のある人の農業分野での活躍を通じて、農業の現場における貴重な働き手となることが期待できるとともに、福祉の視点からは働く場の確保や工賃の向上、社会参画の実現等が期待される重要な取組です。

しかしながら、障害のある人が農業分野で活躍する場を創出し、農福連携の裾野を広げていくにあたっては、「知られていない」「踏み出しにくい」「広がっていかない」などの課題も指摘されています。

本県では、令和元年11月から12月にかけて、農家・農業法人等や障害福祉サービス事業所を対象に「農福連携推進に係るニーズ調査」を実施しましたが、農家・農業法人等の約7割が農福連携について「知らない」「あまり知らない」と回答しており、農業側の認知度はまだ低いことが分かりました。

また、本調査において、障害福祉サービス事業所の約6割が「農業に取り組むうえで不安や心配」(複数回答)として、「農業の知識や技術の習得」と回答しており、その他に「福祉側の支援員に農業の知識がない」、「農業側に障害のある人の特性を理解してもらう必要がある」などの意見が出され、農福連携を始めるにあたっては、当事者にとってハードルに感じるものがいくつかあるという実態も見えてきたところです。

農福連携推進における課題は決して少ないとは言えませんが、まずは、農業側、福祉側双方がお互いのことを知り、農福連携のメリットについて理解することから始める必要があります。

この冊子は、富山県内における農福連携の事例を集めたものです。これから農福連携に取り組んでみようと考えている皆さんの一助になれば幸いです。



農福連携、国の取組



「農福連携」とは、「農業」と「福祉」をつなぐ取組として、全国で様々な形で広がりを見せています。

国は、令和元年6月に農福連携の一層の推進を図るため、「農福連携等推進ビジョン」を取りまとめました。「農福連携等推進ビジョン」では、農業経営の発展と障害のある人がやりがいと生きがいをもって農業分野で活躍する場を作り出すことにより、農福連携の裾野を広げていく必要があるとして、「認知度の向上」「取組の促進」「取組の輪の拡大」の3つのアクションに取り組んでいくとしています。

農福連携を推進するための「国」の3つのアクション

(「令和元年6月 農福連携等推進ビジョン(概要) 資料1」より一部抜粋)

① 認知度の向上

- 定量的なデータを収集・解析し、農福連携のメリットを客観的に提示
- 優良事例をとりまとめ、各地の様々な取組内容を分かりやすく情報発信
- 農福連携で生産された商品の消費者向けキャンペーン等のPR活動
- 農福連携マルシェなど東京オリンピック・パラリンピック等に合わせた戦略的プロモーションの実施

② 取組の促進

- 農福連携に取り組む機会の拡大
- ニーズをつなぐマッチングの仕組み等の構築
- 障害のある人が働きやすい環境の整備と専門人材の育成
- 農福連携に取り組む経営の発展

③ 取組の輪の拡大

- 各界関係者が参加するコンソーシアムの設置、優良事例の表彰・横展開
- 障害者優先調達推進法の推進とともに、関係団体等による農福連携の横展開等の推進への期待

富山県でも、地域共生社会の実現にもつながる、農福連携を一層推進していきます。



農福連携、県の取組



県では、障害福祉サービス事業所における農福連携の取組の県民への周知や障害のある人の社会参加を目的として、平成28年度から毎年2回、農福連携マルシェを開催しています。

令和元年11月に開催したマルシェでは、初めて県外(京都府)の障害福祉サービス事業所にも参加いただき、大きな賑わいを見せました。

■富山県での農福連携マルシェの開催実績

	開催日程	会場	参加事業所数
平成28年	8/28(土)	グランドプラザ	11
	11/ 6(日)	フューチャーシティ・ファボーレ	12
平成29年	8/19(土)	イオンモール高岡	12
	11/19(日)	フューチャーシティ・ファボーレ	10
平成30年	9/22(土)	富山駅自由通路	11
	11/18(日)	イオンモール高岡	8
令和元年	8/24(土)	富山駅自由通路	10
	11/30(土)	フューチャーシティ・ファボーレ	17

令和元年8月のマルシェの様子
(会場/富山駅自由通路)



令和元年11月のマルシェの様子
(会場/フューチャーシティ・ファボーレ)



「さんさん山城」(京都府)の出展

令和元年度には、農業団体、障害福祉団体及び関係機関から構成される「富山県農福連携推進検討会議」を設置し、農福連携の具体的な推進方策や推進体制について検討してきました。

そこでの議論を踏まえ、令和2年度からは、富山県社会就労センター協議会に「農福連携コーディネーター」を配置し、農家・農業法人等と障害福祉サービス事業所をつなぐ仕組み(具体的な仕組みはP30を参照)を作るなど、農福連携を一層推進するための取組みを始めることにしています。



「農」&「福」お互いのメリット

「農業」と「障害者」の新しい出会い

農福連携は、「農業における課題」、「福祉(障害のある人)における課題」の双方の課題解決に役立つWin-Winの取組です。「農業」と「福祉」がつながることで、様々なメリットが生まれることが期待できます。



農福連携の取組は「3パターン」

1. 障害福祉サービス事業所が、自ら農業を行なう



2. 農家・農業法人等が障害のある人を雇用し、農業に従事してもらう



3. 農家・農業法人等が障害福祉サービス事業所に、農作業や加工等を委託する



*卸売場等へ直接納品する場合もある

障害のある人に作業をしてもらう上で知っておきたい 主に得意とする作業と、必要な配慮



収穫物のサイズ見本の型を作っておくなど、判断基準を明確化する工夫が求められます。外部との接触が苦手な人には、パーテーションで遮断することで効率上がる場合もあり、それぞれの特性に合わせて、作業に集中できる環境を整えることが大切です。

障害のある人が主に得意とする作業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●複雑な工程ではない繰り返し行える作業を、得意とする事が多い。人によって、自分で工夫して作業に取り組むことができる人もいます。 (障害の種類や程度による)
障害のある人を雇用する上で必要な配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●複雑な話や抽象的な概念は理解しにくい。加工作業での、野菜の切り揃えや計量などでは、作業は具体的に分かりやすく、根気強く、繰り返し教える必要がある。 ●体調によって作業に波が生じる人もいるため、勤務時間、日数の調整を柔軟に対応する必要がある。また、薬を服用している人もいるので、理解が必要。 ●人にたずねたり、自分の意見をいうのが苦手な人もいます。 (障害の種類や程度による)

農福連携パターン別事例12選〈目次〉



1 わたしたち農業をしています

障害福祉サービス事業所が、自ら農業を行なう

- 1 ほうれん草の場合 7
NPO法人愛和報恩会/FUN FARM のづみ野
- 2 アルギットニラの場合 9
社会福祉法人 秀委會/就労支援事業所ハーベスト
- 3 野菜の水耕栽培の場合 11
NPO法人ワン・ファーム・ランド
- 4 桑の葉茶の場合 13
社会福祉法人フォーレスト八尾会/おわらの里
- 5 菌床しいたけの場合(1) 15
社会福祉法人めひの野圃/作業センターふじなみ
- 6 菌床しいたけの場合(2) 17
一般社団法人山里ふれあい塾

2 障害のある人を雇用しています

農家・農業法人等が障害のある人を雇用し、農業に従事してもらう

- 7 小松菜の場合 19
こまつな菊ちゃんハウス
- 8 菌床しいたけの場合 21
株式会社 森の環
- 9 水稻の場合 23
農業生産法人 有限会社ファームファーム

3 こんな仕事を委託しています

農家・農業法人等が障害福祉サービス事業所に、農作業や加工等を委託する

- 10 エゴマの場合 25
(株)健康堂
- 11 梅しその場合 27
水見福積梅(株)
- 12 干し芋の場合 28
(株)大地農産

4 手を取り合ってはじめてよう

農福連携、受委託契約の流れ

- 受委託契約の流れ 29
- 農福連携を応援します! 30



わたしたち農業をしています

① ほうれん草の場合

【主な仕事内容】 ● 生育補助作業 ● 収穫 ● 出荷調整 等



NPO法人
愛和報恩会
FUN FARM のつみ野
富山県富山市八尾町西川倉23番地1
電話/076-455-0597
【URL】http://www.cty8.com/houonkai/

農業MEMO 9棟のハウスで通年での仕事を確保。適材適所でやりがいを。



1991年に、「障害を持つ人に働く場、生活の場をつくる」ことを目的に、前身となる有限会社愛和環境を設立し、住宅1棟、作業場1棟、桑畑40aからスタート。2019年現在は、40名の障害のある人が在籍し、うち24名が農業・加工に携わっている。

中山間の過疎地域の後継者がいない農家の方からの依頼も多く、水田5.6ha、畑0.5ha、ビニールハウス9棟(ほうれん草を通年栽培)で農作物を育てている。

ほうれん草は、通年で収穫できるように9棟のハウスで栽培されている。全て無農薬の有機栽培。

現場では、一連の流れのほとんどを障害のある人が行い、個人の能力に合わせて仕事を細分化した中で、得意な仕事を割り当てている。毎日必ず自分の仕事があるということが、安心につながるポイントだという。



堆肥作り
稲作で出た籾殻、米ぬかを活用し、水や鶏糞を合わせて、4~5ヶ月かけて堆肥を作る。



草取り
ビニールハウスの際の部分は草刈機を使えないので、手で根気強く草取りを行う。



障害福祉サービス事業所で、自分たちで「農業」をはじめた良かったこと

自然の中で時間に追われず、その人のペースで一生懸命やることができるといのが、農業の1番の魅力です。障害がある人にも得手不得手があるので、それぞれのできることを見つけて、本人の自信につながります。成功体験、自己肯定感というのは大事な要素で、「自分の居場所」を見つけることで落ち着いてくるものです。我々は、支援という姿勢ではなく、寄り添いながら同じ方向を向いて、一緒にやるというスタンスを大切にしています。

また、「人のために役に立つ」というテーマのもと、被災地支援のパザールや、工賃を貯めてネパールの孤児に文房具を届けたりもしています。そうして人に喜ばれることで、本人の喜びにつながっています。みんながやりがいを持てるように、各自の背景やパーソナルな部分をしっかりと観察して、声の掛け方なども考えて接しています。



自然豊かな山あいの中での「こだわりの」野菜作り



他にもいろいろ作っています

春から秋には稲作を行い、また6次産業として団子や味噌作りなどの加工品にも力を入れている。



- 農作物 米、梅、唐辛子 等
- 加工品 味噌・ジャム 等



ほうれん草の出荷調整の場合

【作業内容】収穫して選別し、作業場に運び計量し、袋詰めにする。

1 育ったほうれん草を、収穫・選別する



● 播種や、発芽前までの水撒きは職員が行うが、それ以降はほぼ障害のある人が行う。収穫は一つひとつ手で摘み取り、いらぬ部分を切り、枯れた葉を取るなどの選別作業を行う。

障害のある人が作業する際には

収穫期の忙しい時期には、最大で6~7名体制で行い、なるべく一人の負担を減らすようにしている。体力的に無理の出ないよう、座りながらマイペースで進められる工夫をしている。

【作業に適した人】手先が器用な人、同じ作業に集中できる人

2 摘み取られたほうれん草を次の工程へ



● 次々に収穫されるほうれん草を、加工場へ運ぶのも大事な仕事。現在は、運搬係として2~3名の障害のある人が専門で行っている。できる仕事を準備することで、障害のある人もいきいきと働ける。

障害のある人が作業する際には

身体的な障害がなく、体力に自信がある男性が担当している。同じ場所で行う作業をするよりも、動き回ることが好きという人に向いている仕事。敷地内であるため、危険は伴わない。

【作業に適した人】動くことが好きな人、体力のある人

3 計量し、出荷のための袋詰めをする



● 200gを計量し、袋に詰めていく。生産物を確認して、ゴミなどの異物が入ってはいれば取る作業も行う。ここでの作業が出荷前の最終段階となるため、最終チェックができる人に任せられる。

障害のある人が作業する際には

正確に測ることはもちろん、注意深く観察でき、疑問に思ったことは自分から質問ができるコミュニケーションが取れる人向けの作業。袋に入れやすいような工夫もされている。

【作業に適した人】正確に測れる人、細かい人、根気強い人

4 袋詰めされたものをシール機で閉じる



● ビニールに袋詰めされた商品を最終的にシール機を使って密封する係。ずれた状態で機械にかけると流通段階で開いてしまったり、商品価値が下がるため、経験値の高いベテランの障害のある人が担当している。

障害のある人が作業する際には

根気のいる作業なだけに、黙々と、正確に行うことが求められる仕事。出荷前の商品のチェックはスタッフもサポートしながら行っている。

【作業に適した人】正確に作業を行える人

こんな工夫もしています



仕事の分担で円滑に進める
整地や播種はスタッフが行い、障害のある人は慣れた作業に集中できるようにしている。



袋詰めを簡単にできる—工夫
計量後、シートに包んで袋に落とすことで袋詰めもミスなく、ストレスなく行える。

わたしたち農業をしています

② アルギットニラの場合

【主な仕事内容】 ● 生育補助作業 ● 収穫 ● 出荷調整 等

社会福祉法人 秀 愛 会
 就労支援事業所ハーベスト
 富山県富山市稲代41番地4
 電話/076-461-3320
 【URL】http://www.ayumi-toyama.jp

農業MEMO

年間を通じて農作物を生産。休耕地を活用して地域貢献。

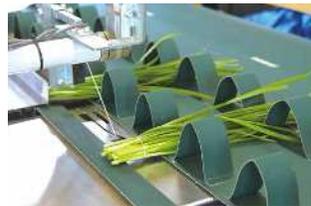


農業に特化した就労継続支援A型事業所として2014年に開所。2019年現在は、障害のある人15名、支援スタッフ4名の体制で行っている。

地元・稲代地区で休耕地や耕作放棄地となった場所を活用し、作物を栽培・出荷することで障害者の仕事の確保と共に、地域貢献を果たしている。

主軸となっているアルギットニラは、「収穫物の選別」のみを行っていたが、5年前から生産に着手し、現在は1.5haにまで拡張。市場へのお荷を通して、北陸、中部、近畿地方のお店に並んでいる。

JAとなみ野の生産組合から、畝や肥料の技術指導を受け、最初は10aから生産に挑戦したアルギットニラ。「アルギット」とは、ノルウェー沿岸で採れるミネラル豊富な海藻のことで、化学肥料を使わず、アルギットが含まれた有機肥料のみで栽培したニラは、風味高く、体に良いニラとして人気が高い。



計量されたニラは、機械を使って自動で結束を行い、省力化している。



結束されたニラを包装機で包装される前に、出荷に適していないものを取り除く。



障害福祉サービス事業所で、自分たちで「農業」をはじめた良かったこと

最大の目的である一般就労という観点から、「積極的にいろいろな経験を積んでもらう」ことを最優先に考え、作業のほとんどを障害のある人と共にしています。

ニラは、毎年収穫を行えます。主に6～11月までの6ヶ月間、最低5～6回は、収穫・出荷しています。ニラは選定も、「枯れているところを取り、短ければ省く」と、簡単明瞭で、複雑な判断がいらないのもメリットです。

直接関わることでニラへの愛着が生まれ、自然に触れ合って作業することで精神的な落ち着きをもらっています。

シーズン終了後は、作業の振り返りや次年度の作業計画もみんなで話し合っ



就労支援事業所ハーベスト

他にもいろいろ作っています

ニラの収穫を終えた冬のシーズン(11月～春先まで)は、葉物の露地栽培を行っている。



農作物 白菜、キャベツ 等



アルギットニラの出荷調整の場合

【作業内容】収穫した物を選別、計量し、袋詰めにしてダンボール箱に詰める。

1 収穫されたニラの洗浄・選別を行う



● 機械で自動洗浄を行い、ある程度粗選されてコンベアから流れてきたものを、障害のある人の目で、再度一本ずつ確認・選別を行い、枯れ葉やゴミなどを省いていく作業。

障害のある人が作業する際には

機械の操作は職員が行い、障害のある人が選別に集中できる環境を作っている。ニラの選別基準を明確にし、パネルに貼り出すことで、作業中いつでも確認できるようにしている。

【作業に適した人】 出良く、見分けの判断のできる人

2 選別されたニラを計量する



● ニラを100～106gのまとまりになるよう、はかりに乗せて計量。長さは、50～52cmと決まっているため、長いもの、短いものは省き、結束機のラインに乗せる。基本4名体制で行う。

障害のある人が作業する際には

判断のプレッシャーがないよう、台も長さや目度わかるように工夫している。数字をしっかりと読むことができ、ひとつの作業を続けることが好きな人に向いている。

【作業に適した人】 手に取って100gの感覚を早くつかむことのできる人

3 結束・包装された商品を出荷する状態に並べる



● 結束されたニラは包装用に自動でパッケージングされ、流れてきたものを、出荷用に箱に並べていく。障害のある人が並べやすいように箱のサイズを一定にし、作業を単純化している。

障害のある人が作業する際には

出荷前の最終段階となる作業。数量を何度も数えなくて済むように1梱に10束づつ並べていく。

【作業に適した人】 一定の数量を正確に並べられる人

こんな工夫もしています



基準はわかりやすくビジュアル化
作業工程を迷わないよう、絵と説明文を描いたパネルを貼り、いつでも見られるようにしている。



基準となる見本を置く
出荷に適したものと、適さないものの見本を置き、障害のある人が見比べられるようにする。



サンプルを保冷庫で保存
出荷した商品のサンプルを一定期間保管している。

有機肥料散布や、草取り作業も障害のある人が担当しています



ニラのシーズン中には有機肥料の散布を、障害のある人が動力散布機を使って月2～3回行っている。水やりは灌水チューブを埋め込み、自動で行う。

また、防草シートでカバーしていても隙間から雑草は生えてくるため、障害のある人が手でこまめに草取りも行っている。

わたしたち農業をしています

③ 野菜の水耕栽培の場合

【主な仕事内容】 ●はくさい、小松菜、トマトなど野菜の水耕栽培

NPO法人
ワン・ファーム・ランド

富山県富山市横樋8番地
電話 / 076-468-4002
【URL】http://www.lactive.net

農業MEMO

“明るく楽しく”オールシーズン野菜を育てる。



オランダのトマト農家へ視察を行ってノウハウを学び、2013年から富山市大沢野で、ビニールハウスでの水耕栽培をスタート。「ハイワイヤー誘引方式」を取り入れたトマトの通年栽培のほか、冬には、はくさい、小松菜、水菜、春菊、ブロッコリーなどの葉物を栽培。露地では大根やごぼうなども育てている。

農業部門では、障害のある人約10名、スタッフ2名の体制で行なっている。一年を通して、効率よく仕事を発生させるため、独自のサイクルを確立している。

トマトの栽培は、高い位置から引く張る「ハイワイヤー誘引方式」を採用し、作業性の向上と収穫量を確保している。また、野菜全般を土づくりが不要な「水耕栽培」に統一している。通年での仕事確保、そして誰にでも育てやすい環境づくりに重点を置き、さまざまな工夫を取り入れている。



ハイワイヤー誘引方式
高さ3m前後にバーを設置、ワイヤーで誘引し、トマトがまっすぐ上に伸びるように育てる。



安定した収量を確保する水耕栽培
タンクに貯めた水を循環させる水耕栽培。生育が早く、省スペースでも収量の安定が見込める。



障害福祉サービス事業所で、自分たちで「農業」をはじめた良かったこと

農業は、天候やあらゆる状況によって、同じ仕事をしていても、毎年違うところに面白みがあります。育っていく様子などが、目に見えてわかるというのは、障害のある人にとって、とても良いことだと思っています。まずは障害のある人によってもらって、本人が自分でやりたいことを見つける事が大事です。その仕事を任せられることによって、責任感が出てきます。できなかったことがだんだんと出来るようになり、我々スタッフも障害のある人のスキルアップが目に見えるようになります。そして役割分担が自然に成され、次に何をするかを自分で考えて行動出来るようになっていきます。作業を押し付けるのではなく、楽しくやりがいをもって仕事に取り組んでもらうこと。なるべく見守りながら、そのためのサポートをするように心がけています。



NPO法人ワン・ファーム・ランドが運営する「カレーハウス コロンパス」

他にもいろいろ作っています

トマトや葉物の水耕栽培の他、器具の製作、直売所に出荷する瓶詰め品の加工なども行う。



- 農作物 季節の野菜 等
- 加工品 瓶詰め品 等
- その他 水耕栽培資材の製作

障害福祉サービス事業所での作業の進め方と、障害のある人が作業する際のポイント

はくさいの育苗の場合

【作業内容】下準備の後、はくさいの苗を作業場に運び、苗入れをする。

1 前の収穫物の後片付けをする



●次の野菜を生育するために、収穫後の後片付けからスタート。長く伸びたトマトの茎などをすべて取り、落ちた葉っぱなどを障害のある人が全員で協力しながら片付けていく。

障害のある人が作業する際には

危険性が伴わないため、障害のある人が自ら役割分担を決めながらスピーディーに作業を行い、次の野菜に影響がないように、ビニールハウス内をきれいに、ゼロの状態に戻す。

【作業に適した人】体を動かすことが好きな人

2 掃除後、はくさい用に場を整える



●野菜の栽培用のパネルを一枚一枚きれいに拭き取り、設置の準備を進める。これも効率よく行えるよう役割分担をしながら進め、最終的にスタッフがチェックを行う。

障害のある人が作業する際には

汚れに気づいて隅々まで掃除ができる人、器具を取り付けなどを黙々と行う作業が向いている人など、それぞれの得意分野の仕事が行えるようにスタッフがサポート。

【作業に適した人】細かい作業が好きな人

3 はくさい苗を運んでくる



●ビニールハウスが整ったら、育苗室からパケツに入ったはくさい苗を運んできて、いよいよ栽培の準備。時間のロスを生まないように、数人体制でスピーディーに進めていく。

障害のある人が作業する際には

葉物なのでそれほど重くはなく、体への負担は少ない。体が動かすことが得意で元気な人が担当するケースが多い。いよいよ生育が始まる喜びから、作業者にも力が入る。

【作業に適した人】体を動かすことが好きな人

4 はくさい苗を1株ずつ入れる



●マルチシートが貼られたパネルに、直径3cmほどの穴を開けてあり、そこにはくさい苗の根っこを1株ずつ入れていく。技術と慣れが必要とされる、大切な作業。

障害のある人が作業する際には

根っこ全体が水に浸からないと生育に影響するため、手先の器用さで集中力が必要な作業。最初は慣れるまでに時間がかかるが、徐々にコツを得て上手になっていく。

【作業に適した人】手先が器用な人、細かい作業が好きな人

■ 播種から育苗管理、清掃も障害のある人が担当しています



ワン・ファーム・ランドでは、障害のある人が自ら、種まきから摘み取りまでを一貫して見届けることで、やりがいを感じてもらうことを目的としている。あらゆる野菜を栽培するため、一回一回の掃除も大事な仕事。水耕栽培に欠かせない、タンクの水の補充、掃除も定期的に行う。

わたしたち農業をしています

4 桑の葉茶の場合

【主な仕事内容】 ● 生育補助作業 ● 収穫 ● 出荷調整 等



社会福祉法人
フォレスト八尾会
おわらの里
富山県富山市八尾町黒田53番地3
電話 / 076-454-2117
【URL】http://www.cty8.com/forest/

農業MEMO 八尾の地場産業・桑の葉の栽培を再生し、地域に貢献。



1997年に、身体・精神問わず、障害のある人が働ける環境を作るために小規模作業所を始め、2019年現在は、38名の障害のある人が従事している。「地元・八尾らしさを残していきたい」という思いで、2006年から八尾の地場産業であった、桑の葉の生産をスタート。元養蚕試験場技術館と協力して、休耕田5aを借りて再興し桑の木を植えた。手摘みをした後は、洗浄して、干して、焙煎して…と、時間と技術が必要になるが、その多くの工程で障害のある人が活躍している。

収穫した桑の葉は、茶葉やペットボトルのお茶として出荷する他、シフォンケーキやせんべいなど、オリジナルの加工品を開発して人気を呼んでいる。

桑の葉の栽培をはじめとした農作業の合間を縫って、加工作業を加えることで、障害のある人の通年の仕事を生む仕組みづくりを行っている。



原材料の大きな桑の葉
大きく育つ桑の葉は成長が見えやすいため、障害のある人の喜びにもつながる。



共同企画し商品化も
廣貴堂と共同開発し、商品化を実現した「おわら桑摘み茶」。



障害福祉サービス事業所で、自分たちで「農業」をはじめて良かったこと

私たちの仕事は、障害のある人に作業を提供して、それに合った工賃を渡すことです。これまで、障害の程度が軽い人から全盲の人まで、いろんな方に来てもらっていますが、自分ができる仕事を通して、生きがいや動きがいを感じてほしいと願っています。

仕事を維持するには、ただ生産するだけではなく、時代の需要に合ったものを提供し続けることが大切なため、農作物を使ったオリジナルの加工品やお土産物など、様々な取り組みを行っています。

農業は、作物の成長や収穫など目に見える成果があり、食卓に並ぶものを生産しているという喜びも感じることができます。作業を細分化することでいる人々と関わりを持ち、力を合わせて作り上げる喜びを感じてもらいたいと思っています。



社会福祉法人フォレスト八尾会「おわらの里」



他にもいろいろ作っています

米やナス、トマト、里芋などの季節野菜も栽培。梅干しや米菓子、弁当の生産・販売も行う。



- 農作物 米、季節の野菜、梅 等
- 加工品 米菓子・梅干し・山菜を使った瓶詰め品 等



桑の葉茶の出荷調整の場合

【作業内容】 収穫して選別し、作業場に運び計量し、袋詰めにする。

1 桑の葉を選別・検品し、洗浄する



● 収穫した葉を、傷みがないかなど状態のチェックを行う。汚れやゴミを取り除いてから、枝ごと水できれいに洗浄していく。味と品質を守るための重要な工程の一つ。

障害のある人が作業する際には

良い葉か悪い葉かを見極める判断力が必要のため、ある程度経験を積んで覚えていく。一枚一枚の葉を傷つけないように、丁寧に、迅速に作業することが求められる。

【作業に適した人】 判断力のある人、こまめに作業できる人

2 葉を乾燥し、摘み取る



● 洗浄した葉は、室内で乾燥機にかけて一週間ほど乾かす。完全に水分が抜けた状態になると、今度は枝が湿らないように注意しながら、一枚ずつ葉を摘み取りしていく。

障害のある人が作業する際には

座りながらでもでき、特別力が必要ないので、女性や足などが不自由な人にも可能な作業。手先が器用で、黙々と作業することが得意な人に向いている。

【作業に適した人】 器用な人、同じ作業を継続できる人

3 葉を粉砕機にかける



● 茶葉や加工食品用に葉を粉砕する。機械の操作が必要な作業は、基本的にスタッフが行う。粉砕した葉を運んだり、周辺を掃除をする作業は、障害のある人が担当している。

● 粉砕機は特に危険性が高いため、作業は全てスタッフがを行い、障害のある人は機械に触らないよう徹底している。粉砕機から出る埃やかすなどの掃除は、こまめに行う。

4 焙煎された葉を袋詰めする



● 高温で焙煎された葉を冷却し、袋詰めを行う。分量を測り、小さな袋に入れていく細かい作業になるため、集中力が必要とされる。無駄なく、スピーディーにこなしていく。

障害のある人が作業する際には

摘み取りと同じく座りながらできる作業。出荷前の最終的な作業なので、異物や汚れが付着しないよう、必ず手袋をして行うよう衛生管理には注意を払っている。

【作業に適した人】 手先が器用な人、細かい作業が得意な人

収穫から剪定、桑畑管理も障害のある人が担当しています



桑園での作業は、例年4月の堆肥撒きから11月の剪定・桑畑整備まで、長期に渡って多くの工程が組まれる。

夏の収穫は、全員参加で一斉に行うことが恒例となっており、この協同作業が障害のある人にとってのモチベーションにもつながっている。

本格的な冬が来る前に剪定をして、来シーズンに備える。

わたしたち農業をしています

⑤ 菌床しいたけの場合(1)

【主な仕事内容】 ● 培地づくり ● 収穫 ● 出荷調整



富山県富山市西金屋6694番地4
電話/076-436-0270
【URL】https://www.mehino.jp

農業MEMO

多種多様な作業工程の中で、52名の障害のある人が従事。



培地を浸水させて再利用
一度収穫した培地は、浸水させることで、再度利用することができる。

菌床しいたけの一貫生産によって、障害があっても働くことのできる多機能型事業所として、2005年4月に作業センターふじなみを開設。菌床の販売企業である森産業(株)と協力関係を築き、菌床の提供、製造体制・技術の指導を受け、年間を通して安定した仕事を確保している。それぞれの得意な分野に仕事を振り分け、2019年現在は、仕込み・植菌部門17名、ハウス部門18名、パック部門17名の障害のある人が従事している。



収穫したしいたけの選別
大きさや形など、品質に基づいて分類する作業。不良品などがあれば取り除く。



誰がやっても同じにできる仕組み作りで
トレーの下に下絵を置き、誰でもサイズごとにパック詰めできるように工夫している



細かい作業も丁寧にすることができる
パック詰め前の最終段階。クリームが出ないように、汚れや異物をエアで取り払う。

福

障害福祉サービス事業所で、自分たちで「農業」をはじめた良かったこと

菌床しいたけの一貫生産には、仕込みから出荷作業までさまざまな工程があり、それぞれの適性や希望に合わせた仕事で支援できます。

また、空調の整った栽培ハウスで、年間を通して安定した仕事量が確保でき、機械化できない手作業が多いという点も魅力です。

一人ひとりが自分のできる仕事を一生懸命にやり遂げ、自立した生活に向けて頑張っています。企業と連携することで、関わるすべての人がWin-Winになる関係を築けています。



植菌し培養された培地は、栽培ハウスへ

農福連携のメリット

「毎日仕事がある」という安心感が重要です。忙しいから不安になる時間がなく、作業に没頭することでパニックになる暇がありません。仕事の内容が多様で、かつ作業量の多いしいたけ栽培は農福連携にはとても向いています。

障害福祉サービス事業所での作業の進め方と、障害のある人が作業する際のポイント 菌床しいたけの培地づくりから収穫までの場合

【作業内容】 培地づくり(植菌)、培養、ハウスへ運搬、育成管理、収穫まで。

1 培地の原料を袋詰めし、植菌をする



● 培地の原料をこぼさないよう長方形の袋に詰める。培地に菌を植える作業の補助として、日付のラベル貼りなどを行う。

障害のある人が作業する際には

機械の操作は基本的に職員が行い、障害のある人は危険性の少ないミキサーや工場内の掃除や、袋詰め、培地並べ、ラベル貼りなどを担当。

【作業に適した人】 正確に作業を行える人

2 袋に入った培地を空調管理された部屋で培養させる



● 植菌された培地を培養させるため、棚に一定の間隔で整然と並べていく。並べる作業は数人でリレー方式で行う。

障害のある人が作業する際には

培地を落とさないように、また培地と培地がくっつかないように注意が必要のため、数人体制で正確に行う。

【作業に適した人】 根気強く、一つの作業に集中できる人

3 培地を栽培ハウスに運び、棚に並べる



● トラックで運ばれてくる培地を、台車に乗せてハウス内に移動。しいたけが育ちやすいよう間隔をあけて棚に並べる。

障害のある人が作業する際には

障害のある人が運びやすいようにコンテナには一定量の培地を入れ、また台車が通りやすいように通路の確保にも配慮する。

【作業に適した人】 体力のある人

4 生育したしいたけを摘み取りする



● 芽が出てきた状態をチェックし、ぶつかっているしいたけを芽掻きする。一定サイズに育ったものを収穫していく。

障害のある人が作業する際には

芽掻き、収穫ともに、選別する能力が求められるため、ある程度の経験が必要となってくる作業。

【作業に適した人】 細かい作業が得意な人、判断ができる人

こんな工夫もしています

作業に携わる障害のある人の「やる気」を最大限に引き出す

毎日の収穫量は、およそ250~300kg。収穫したしいたけは当日出荷し、次の朝に市場で競りにかけられ、スーパーに並びます。また自社工場の直売所での販売も行っているため、お客様の声を直に聞けることで障害のある人のやりがいにもつながっています。一貫生産によっているんな工程で仕事生まれ、シールを貼るだけ、並べるだけの作業でも大丈夫です。自閉症の人たちにとってわかりやすい作業環境を整え、できること、得意なこと、苦手なことに合わせて仕事を創り出すことができるため、他の事業所で順応できなかった方でもやりがいを持って臨める仕事が多いです。

空調設備の整った栽培ハウスがあるため、年間を通して天候や季節に左右されず、栽培時期をずらして毎日収穫ができるような仕組みを作りました。



簡単な作業でも、一人ひとりが自信をもって働ける

わたしたち農業をしています

⑥ 菌床しいたけの場合(2)



富山県水見市上余川1180
電話/0766-50-8390

【主な仕事内容】 ● 培地の記列 ● 収穫 ● パック詰め 等

農業MEMO

菌床栽培で収量を安定化。1日120~140kgを出荷。



育成状況、収穫時期のチェック
棚ごとに培地を並べた日を分けているため、各々の育成の状況を把握し、収穫日を確認。

当初は原木でしいたけを栽培していたが、収穫の安定化を考慮して2014年12月から菌床での栽培をスタート。2016年には、就労継続支援B型事業所として一般社団法人を立ち上げる。2019年現在は、ハウス3棟、野外での自然栽培を4ヶ所で行っており、介護士、看護師の経験ある主婦の方を中心とした10名のスタッフが、障害のある人10名をサポートしている。障害のある人の多くは、水見市内から無料の送迎バスで通勤している。

水見市に福祉施設は数多くあるが、農業を営んでいる施設は少ない。2018年には、この施設で自立心を育み、就労継続支援A型に3名、一般就労に1名が移動している。



露地栽培の収穫は障害者が担当
ハウスから少し離れた山林でしいたけを露地栽培している。選別、収穫はすべて利用者が行う。



大きく育てて干しいたけに
露地栽培で大きく育った椎茸は、そのままパック詰めせず、干しいたけにして出荷している。

生産したいたけは、長年かけて開拓してきた水見市内のスーパーや直売所を中心に卸し、残りは市場へと出荷している。



障害福祉サービス事業所で、自分たちで「農業」をはじめて良かったこと

農業は本当にたくさんの仕事があるので、個人の特性を生かして、いろんな場面に関わってもらって、居場所を見つけてもらうことが大事だと思います。特にしいたけ栽培は手をかける作業が多いので、障害のある人がやりがいを持つにはとても良い仕事だと感じています。自分ができることに集中してもらい、それができると達成感につながり、自信になっていきます。

言葉で伝わりづらい時は、こちらも実演したり、工夫しながら理解してもらえるように努力しています。今後は、誰でも同じ作業ができるようなレクチャー動画も作成していきたいと思っています。スタッフも面倒見の良い主婦の方が多いので、みんなで協力しながら楽しく動いてくれています。



商品がお店に並ぶことが利用者のやりがい

障害福祉サービス事業所での作業の進め方と、障害のある人が作業する際のポイント

菌床しいたけの出荷調整の場合

【作業内容】収穫された物を、作業場で選別、計量をして袋詰めにする。

1 収穫物の汚れをとり、軸切りをする



● 摘み取り・選別は基本的にスタッフが行い、収穫したものをきれいにしていく作業を障害のある人が担当。商品として出荷できるように、培地の汚れや、不要な軸の部分を取り除く。

障害のある人が作業する際には

座りながらでもできる作業なので、体力に自信がない人でも問題なく任せられる。毎日120kg~140kgもの量をこなすため、コツコツと一つの作業に没頭できる集中力は必要。

【作業に適した人】一つの作業を継続できる人

2 計量して、パックに並べる



● きれいになったしいたけを、1パック110~130gになるように計量して、トレーの上に並べていく。見栄えよく見せるよう、向きをきれいに揃えることも大事な仕事。

障害のある人が作業する際には

わからない時にはすぐ聞けるように、ベテランの女性スタッフ数人と一緒に行っている。パック前の最終段階となるため、汚れや異物を発見できる能力も必要とされる。

【作業に適した人】細かい作業が得意な人

3 ラップがけ・シール貼り



● エアコンプレッサーでゴミを取り、トレーにラップをかけて、ラベルシールを貼っていく。6個入りと、7~8個入りの商品に分けて、出荷用の段ボールに詰めていく。

障害のある人が作業する際には

基本的に一人でやる。機械を扱う唯一の作業であり、危険性を伴うため、ある程度の経験と知識を持った人が担当。スピーディーに数を数えて、段ボールを分ける、判断力も必要。

【作業に適した人】注意力のある人

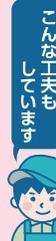
■ 培地の準備〜後片付けも、障害のある人が担当しています



培地を浸水タンクに入れる



水から上げた培地をハウスへ運ぶ



棚が一目でわかるように
培地を並べた日が棚ごとに違うため、棚番号の下に日付を明記して間違いを防ぐ。



棚に一定間隔で培地を並べる



ハウス内を清潔に保つ

菌を活性化させるために水を含ませた培地は、ある程度の重さがあるため、運んだり、並べたりという作業は主に体力に自信がある男性が行っている。一定の間隔を開けながら棚に並べる作業は、力と同時に細かさも必要となるため、一点集中型の人に向いている。

ハウス内の掃除もしいたけ栽培には欠かせない仕事。棚や床に汚れが残っていると、しいたけバエの発生につながるため、清潔な環境を保てるように1日数回行っている。

障害のある人を雇用しています

7 小松菜の場合

【主な仕事内容】 ● 播種・収穫・出荷調整

農業MEMO

健康者と障害のある人の垣根をなくし、年100t超の出荷量を誇る。



富山県射水市円池46-2
電話/0766-53-0078



ハウス36棟で通年栽培
ハウスを増設することで、“常に収穫できる”サイクルを実現した。



竹パウダーで強い薬物を栽培
土壌改良剤として、薬物の生育に良いとされる竹パウダーを使った肥料を散布している。

小松菜栽培を目的とし、2005年に田んぼを60a借りてハウス11棟を設備。同年に初めて播種を行い、翌年2006年に初収穫。その後、徐々に規模を拡大し、2019年現在は、ハウス36棟で小松菜と、ほうれん草を中心に栽培している。2018年には、小松菜99t、ほうれん草4tを出荷。従業員18名のうち、7名の障害のある人が常勤で働いている。

2017年は、とやま障害者フレンドリー企業に認証された。



小松菜の播種作業



小松菜の出荷調整



ハウスの遮光ネットの脱着などの管理



農

障害のある人と「農業を連携」して良かったこと

農業に就職してくれる若い健康者は少なく、すぐに辞めてしまうという問題もありましたが、現在在籍している障害のある方は、本当にしっかりと働いてくれるので区別することなく接しています。

周りのスタッフがサポートしながら、体調に合わせて働いてもらうようにしています。仕事を覚えてもらうまでには、多少の我慢と時間が必要ですが、はっきりとした流れを作り、やりがいを持って働いてもらえるような環境を作ることが、我々の役目です。そのためにも親御さんの理解が大切なので、最初の面接の際には親御さんと本人がどういった考えを持っているかをしっかりと聞き、納得して働いてもらうように心がけています。



こんな農作物で連携が可能です

ほうれん草や梨に加え、季節ごとにカブ、カリフラワー、カボチャ、パプリカなどを栽培する。



農作物 ほうれん草／梨 等



小松菜の出荷調整の場合

【作業内容】作業準備し収穫した物を選別、計量、袋詰めにしてダンボール箱に詰める。

1 ハウスの管理、収穫の補助作業



●ハウスの換気や灌水、また気候や生育状況に合わせてハウスの遮光ネットの脱着などの管理を行う。段ボール箱の組立てや、収穫時に出る葉の残渣の処理、製品の運搬等も大事な作業。

障害のある人が作業する際には

スタッフは高齢の女性が多いため、重いものを運んだり、片付けたりという作業の時には、若く、体力に自信のある障害のある人が力を発揮。自分しかできない仕事を与えられることで使命感が増す。

【作業に適した人】元気で体力のある人

2 毎日のように行われる収穫



●最盛期は一日で2棟収穫することもある。播種から収穫までの一連の流れを、1棟のハウスにつき年間9～10回転、36棟のハウスで行っている。収穫が終わると、その日のうちに播種まで行うこともある。

障害のある人が作業する際には

やるべき仕事を明確に伝える。ハウス内での作業となるため、休憩をしっかりと取り、スタッフが声をかけながら体調を観察する。

【作業に適した人】根気強く、一つの作業に集中できる人

3 計量・包装し、出荷準備



●収穫された小松菜は、そのままハウス内で計量・包装作業を行う。ゴミや枯れた葉が混ざっていないかをチェックし、定量ごとに袋詰めし、段ボールに詰めて出荷の準備を行う。

障害のある人が作業する際には

正確性を要するが、座りながら自分のペースで行えるため、知的・精神・身体の障害に関係なく、携われる仕事。黙々と、一人で作業に没頭できる人に向いている。

【作業に適した人】正確に測れる人、根気強い人

こんな工夫もしています



従業員が側と一緒に作業するベテランスタッフが近くで見守りながら、一緒に作業をすることで安心感が生まれる。
無理せず一定の仕事と同じ作業を繰り返すため、自分のペースで進めてもらえるよう、最低限の速さや正確性は必要ではあるが、無理なノルマは課さない。



福 野菜が育つ姿を見ると、仕事の励みになる

自分で種を撒いたものが、だんだんと大きく育っていくのを見ることができて、それを収穫する時は、やはり一番うれしい瞬間です。草取りをしたり、耕うん機を動かしたり、仕事はたくさんありますが、体を動かすことはとても好きなので、やりがいを感じています。

■ 播種作業や生育管理等の作業も障害のある人をお願いしています。

障害のある人が作業する際には

ハウス内の草取りから、土づくりのための堆肥や有機肥料の散布、機械を使った耕耘や播種まで、障害のある人も、ほぼ全ての工程に携わる。得意不得意を見ながら、なるべくいろいろな作業を手分けして行えるような、システムづくりに取り組んでいる。

【作業に適した人】体を動かすことが好きな人、根気強い人



肥料散布



耕運作業



草取り

障害のある人を雇用しています

⑧ 菌床しいたけの場合

【主な仕事内容】 ● 乾物加工、箱づくり、箱詰め



富山県高岡市草附1239-55
電話/0766-36-1810
【URL】http://morinowa.co.jp

農業MEMO 大規模工場で4名の障害のある人が活躍。10年以上のベテランも。



1985年、カナボウ(現クラシエ)が開発した菌床栽培システムの協力会社として菌床製造及び、しいたけ栽培を開始。2018年には空き工場(ニット製造)を栽培工場・パッケージセンターに再生。地中熱利用システムや太陽光発電等を取り入れ、環境にも配慮した生産拠点に生まれ変わる。同年10月に現社名に変更(旧上田産業)。年間約110万菌床を41棟のハウスで栽培している。2019年現在は、各工程で障害のある人4名を雇用。中には12~15年のベテランもいる。今後は栽培が終わった後の廃菌床の再利用にも力を入れていきたいとしている。



機械を導入し効率化
パック詰めラインは3つに分かれ、全てが機械でシステム化されている。



減圧乾燥機を使った茸類の乾物加工
1パレットに2kgのしいたけを乗せ、専用の減圧乾燥機で乾物に加工する。



各生産物の出荷用箱の組み立て



しいたけの乾物加工



出荷前の乾物加工品



障害のある人と「農業を連携」して良かったこと

2019年現在は菌床工程で1名、栽培工程で1名、パック詰め工程で2名の障害のある方に作業をしてもらっています。出来るところから始めて、この会社で自信をつけてもらえることが目的の一つです。2020年度には更に1名を雇用し、仲間が増える予定です。

障害のある方を雇ってみて、メリットとして感じるのは、作業が非常に真面目だということ。飽きが来るといった単純作業にも、こちらの指示通りに黙々と従事してくれています。また、菌床を担当している人は、健康者の1.5倍ほどの力持ちなので、みんな助けられています。

障害のある方をはじめ、高齢者や短時間労働者、外国人労働者を含めて、人材の多様性を進めている中で、その人の特性を見極めて、能力を最大限に活かしてもらうことが我々の役割であると思っています。



株式会社 森の環(本社)



しいたけの菌床づくりと、収穫までの場合

●菌床づくり…【作業内容】培地を充填した後、台車に載せ殺菌釜に移動する

1 充填された培地をコンテナに入れ、移動用の台車に載せる



●機械で袋詰めされて出てきた培地をコンテナに一定の数で並べ、移動用の台車に載せていく。空いている台車はまた元の位置に戻し、荷積機にセットするという作業を繰り返す。

障害のある人が作業する際には

数を間違えないように、コンテナに並べる。そして、次の工程を想定して準備をやるのが大切。7段の高さがある台車に並べる作業も、ある程度の力が求められる。

【作業に適した人】正確に数を数えられる人、力に自信のある人

2 殺菌釜に入れる



●培地入りのコンテナがぎっしりと積まれた滑車付きの台車を、殺菌釜へと移動させ、限られたスペースの殺菌釜にきれいに収納させる作業。体力と経験値が必要な作業。

障害のある人が作業する際には

培地を積んだ台車は重さ300kgにもなる。うまく動かすためには力に自信があり、経験を積んだ男性が担当。倒せば事故の危険性にもつながるため、注意力も求められる。

【作業に適した人】力に自信のある人、注意力のある人

●栽培管理と収穫…【作業内容】しいたけ芽摘みや収穫、菌床の出し入れ及び浸水作業、ハウス内の清掃

1 栽培ハウスで芽摘みと収穫を行う



●大きく丈夫なしいたけが育つよう、定期的に不要な部分の芽かきを行い、成長したら摘み取りをする。砺波工場の栽培ハウスでは、12年の経験を積んだ障害のある人が作業を担当している。

障害のある人が作業する際には

培地の生育状況を見て、どの部分を省くか、残すかという判断を瞬時にできることが求められるため、経験を重ねることで、手際良く、無駄なく摘み取りできる技術も身につけていく。

【作業に適した人】判断力のある人、器用な人

2 収穫後のハウス内を清掃する



●収穫が終わった後は培地を棚から下ろし、棚と床などの洗浄と消毒を行う。次の栽培に向けて、虫などが発生しないよう高圧洗浄機で、隅々まで時間をかけて汚れを取り除く。

障害のある人が作業する際には

元気がないたけを育てるには清潔なハウス環境を保つことが重要。たくさんの菌が住み着いているため、高圧洗浄機を使用して、細かい汚れに気づいて、根気よく作業できる人が担当する。

【作業に適した人】汚れに気付ける人、細かい作業



工夫を積み重ねて、自信が持てるようになった。

始めたての頃は、どのようにしていいかわかりませんでした。細かい汚れの洗い残しもありましたが、自分なりにどうしたらいいか考え、工夫して、今では洗いの残しのないようにできるようになりました。

日々の積み重ねの中で、課題を見つけて取り組むことで、スタッフの方にも言われなくても、できるようになりました。だんだん慣れてきて、この仕事にやりがいを感じています。いつも元気に働けるように、体調管理には気をつけています。



障害のある人を雇用しています

⑨ 水稻の場合

【主な仕事内容】 ● 育成・管理・収穫・出荷調整

農業MEMO

寮生活を送る仲間とともに、減農薬栽培米に取り組む。



稲作が盛んな富山市大沢野の万願寺地区。耕作放棄地の整備や、田んぼ周辺の草取りなども率先して行い、農作業を通じて、地域住民との触れ合いを大切にしている。

10代・20代の若者が多く、作業中にも笑顔と活気が溢れる。生産した米は、東京・大阪など首都圏での直売が中心になっている。



耕作放棄地の開拓

施設周辺の地区には雑草が伸びきった耕作放棄地も多く、整備を任せられることも。



畦道の草取り作業

危険性を考慮し、草刈り機を扱う人を限定している。その他の利用者は手で草取りを行う。



富山県富山市万願寺144

電話 / 076-467-0969

[URL] <https://www.haguregumo.jp/farmfirm>

1996年に設立。2007年に認定農業法人化。1988年に設立された、自立支援のための寮「Peaceful House はぐれ雲」で生活を送る知的・発達・精神などの障害のある人も農業に従事し、13haの水田で稲作を行っている。2019年現在は、障害のある人17名に対し、スタッフ6名。県外から来ている入寮生も多く、豊かな自然の中で、有機肥料を使った減農薬の米づくりに取り組んでいる。

苗づくりから、刈り取り後の田んぼの手入れまで、すべてを若いスタッフとともに力を合わせて行う。



NPO法人 北陸青少年自立援助センター「Peaceful House はぐれ雲」

障害のある人が作業する際には

症状や度合いによってできる作業は違うため、その人に合った作業をしてもらう。一緒に作業するスタッフが、力仕事が得意な人、機械を扱うのが好きな人、細かい作業を延々と続けられる人などを見極め、たくさんの方の農業の中からの的確に仕事を割り振っている。



苗作りから収穫までの場合

【作業内容】 苗づくり、除草、田植え、稲刈りなど



4月 苗作りを始める

- 稲作のスタートとなる苗づくりは全員で協力して行う。日の当たるビニールハウス内に、育苗箱を整然と並べて育成状況をチェック。
- 人手が必要な工程であるため、細かい作業、力の必要な作業など、障害のある人に合わせて内容を振り分けながら、効率よく進めていく。



5月 育った苗を田植え

- 苗が育成するゴールデンウィーク頃、13haの水田に田植えを行う。きれいに稲が育つかどうかを左右する最も大事な作業の一つ。
- 田植え機は、危険性を考慮して基本的にスタッフが操縦。田んぼの一部では、障害のある人と保護者で行う「手植え」も恒例となっている。



6月 水田の除草

- 苗が田に根付いた頃に行う中耕除草。稲の育成を邪魔しないように、周辺に生えてきた雑草を手動式の除草機で取り除いていく。
- 事故の危険性が低い手動式の機械を採用し、誰でも参加できるようにしている。体力に自信がある人に向いている作業。



7月 畔や水際の草刈り

- 夏場は稲の成長とともに、畔や水田の周辺には雑草が生茂るため、定期的に草刈り機を使って、環境を整備している。
- 草刈り機を使った作業はスタッフとともに障害のある人も行う。危険を伴う作業のため、注意点などを理解できる人が担当する。



9月 稲刈りをする

- 半年をかけて行ってきた米づくりの総決算ともいえる稲の収穫。スタッフ、障害のある人と保護者が集まり、みんなが力を合わせて行う。
- 大部分はスタッフがコンバインを使って行うが、必ず障害のある人と保護者に、手刈り、はさがけといった伝統的な作業を体験してもらう。



農

障害のある人と「農業を連携」して良かったこと

毎日の食事は、自らの身体の原料であり、食事をしない人などないわけです。手間隙を惜しまず、育てたお米の美味しさを知ってもらいたいという思いもあり、ファームファームでは寮で生活する若者に米作りを体験してもらっています。

寮には不登校や、引きこもりの人も多く、自立に向かわせるためには、まずは生活リズムを掴むことを教えたいと思っています。そのためには、朝しっかりと起きて体を思いきり動かしてリズムを作る。そして、自信をつけることが何よりだと考えています。農業は「百姓」と呼ばれるだけあり、100の仕事をすると言われるほど、いろんな作業が必要になります。覚えること、やるべきことはたくさんありますが、その分一つひとつの作業が彼らの自信につながります。

目的はそれぞれが自立し、就労すること。そのひとつの方法として、全員がまずは農業に携わってもらっています。寮で共同生活をしていることで、仲間と感化され、変わるスピードが速いと感じています。

お日様のもと、汗を流すことで、自分の殻に閉じこもっていた子たちに笑顔が増えていくのが手に取るようにわかるのも、スタッフの喜びになっています。

こんな工夫もしています



自分たちで販売も体験

イベントなどの出店時には、販売の手伝いも行おう。自分たちの育てた米や野菜を買ってもらって喜びが、仕事のやりがいにもつながる。

こんな仕事を委託しています

10 エゴマの場合

【主な仕事内容】 ● 室内工場でのエゴマの葉の栽培



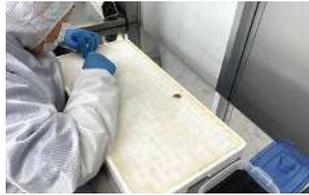
富山県富山市山田赤目谷10
電話/076-457-2870
【URL】https://www.kensaidou.com

農業MEMO LEDや空調システムで、エゴマの栽培環境を通年で一定管理。



2013年に、富山市山田村に県内企業4社が共同して農業生産法人「健菜堂」を設立。ロズマリン酸やクロロフィルなど、強い抗酸化作用を持つとされる機能性成分が豊富で、アンチエイジングの効果が期待できるエゴマの葉を生産している。牛岳温泉植物工場では、LED照明による室内栽培が行われ、6名の障害のある人と、2名の指導員が従事している。播種からパック詰めまでをすべて一貫で行い、学校給食や、県内のスーパー、直売所などに出荷されている。

植え替え作業は…
播種後、芽が出てきたら発泡パネルに入れて生育。葉の成長を見て、幅の大きいパネルへと移し替え、葉の成長を促す。



エゴマの播種作業



エゴマの育成管理



エゴマの葉の収穫と出荷調整



障害のある人と「農業を連携」して良かったこと

山奥という立地条件から、今まで頂いている障害のある人のほとんどの方には、送迎バスで出社してもらっています。全員が、「一般社団法人 新草会 就労継続支援A型事業所 セリュー」さんから「施設外就労」(P29参照)として来て頂いている方で、元気で、足腰の丈夫な若い方が多いので、とても助かっています。愚問を言わずに、真剣に自分の仕事を全うしてくれる点には本当に感じます。ある程度一連の流れをこなせる方が多いですが、向き、不向きを見極めながら、業務の担当を振り分けています。食品なので衛生面では、指導員が徹底して注意喚起を行うように管理しています。また、ストレスを軽減できるように、工場の向かいにある温泉施設で休憩してもらおうなどの工夫を行っています。

■ 一般社団法人 新草会 就労継続支援A型事業所 セリュー
富山県富山市総曲輪4-4-3 電話/076-491-7123 【URL】http://shinsoukai.html.xdomain.jp



(株) 健菜堂「牛岳温泉植物工場」

農業現場での作業の進め方と、障害のある人が作業する際のポイント



エゴマの葉の収穫と出荷調整の場合

【作業内容】エゴマの葉を収穫し、サイズ毎に仕分け袋詰めにする

1 LED照明の部屋で、播種から摘み取りまでを行う



● 播種後1週間ほどで発芽し、成長を観察しながら、120穴から24穴のパネルへと移し替える。4週間経つと、今度は栽培室へパネルごと移動させて成育した葉を摘み取る。

障害のある人が作業する際には

パネルの移し替え作業時には、根や茎を傷つけないよう、3cmの穴に慎重に落とし込むことが求められ、成長が遅い葉を判別する能力も必要のため、障害のある人の適性を見極めることが大切。

【作業に適した人】細かい作業が得意な人

2 摘み取りした葉を洗浄し、水切りを行う



● 生食される商品だけに衛生管理を徹底。摘み取った葉を微酸性電解次亜水で洗浄し、目に見えない付着物を除去。同時に、生育中の溶液に入っていたバクテリアなどを殺菌する。

障害のある人が作業する際には

葉がしおれないうちに水に浸け、また次工程への進行をスムーズにするために、短時間で正確に作業を進めることが求められる。指導員が常時目を配り、衛生面と品質のチェックを行う。

【作業に適した人】機敏に正確な作業ができる人

3 葉を10枚一まとめにパック詰めし、シーラーをかける



● 前工程で10枚ずつにまとめられた葉を、きれいに袋に詰めていく作業。シーラーを使って密封された製品は、出荷用の段ボールに一定の数ごとにに入れていく。

障害のある人が作業する際には

店頭に並ぶ最終形に仕上げるパート。一つひとつ丁寧に、根気強く作業に取り組める人に向いている。シーラーも使い、危険性も伴うため、注意力も必要とされる。

【作業に適した人】正確に数えられる人、根気強い人

こんな工夫も
しています

出荷規格表

規格	縦	横	厚	重さ
LL	130mm	110mm	10mm	10g
L	110mm	90mm	8mm	8g
M	90mm	70mm	6mm	6g
S	70mm	50mm	4mm	4g



葉のサイズが一目でわかるように縦13cm、横11cmが出荷に適したLLサイズ。大きさのガイド(サンプル)を作成し、収穫時に誰もが一目でわかるように工夫している。



福 決して単純ではない仕事です。上達している事も自覚できて、やりがいがあります。

最初の1週間は不安もありましたが、指導員の方が付きっきりで仕事を教えてくださったので、早く慣れることができました。葉っぱの成長に合わせて移し替える作業は、単純に見えて難しく、最初は大きさのガイドに合わせて計っていました。そのうちに違いが目わかるようになり、作業も速く進められるようになりました。上達していることが自分でもわかって、とてもやりがいを感じます。エゴマが育っていく姿が目に見えてわかりますし、月・木の出荷の箱詰め作業の時には、「もう少しでお客様に届くんだ」と感じることができて、とても嬉しいです。



収穫後の清掃作業

こんな仕事を委託しています

⑪ 梅しその場合

【主な仕事内容】 ● 栽培・収穫・加工・出荷調整

**氷見稲積梅(株)**富山県氷見市稲積 355-2
電話 / 0766-72-2221【URL】<https://www.himiinazumiume.jp/>**農業MEMO** 梅しその加工を、障害福祉サービス事業所に委託。

天日干した梅しそ

塩以外は何も加えない、体に優しい無添加製法にこだわっている。

氷見市稲積地区で生産する稲積梅と、その加工品の販売を目的として、2011年3月に特産氷見稲積梅生産組合加工部を法人化し、設立。核が小さく肉厚な稲積梅は、梅干やジュースに最適で、1949年に富山県の指定品種となっている。

昔ながらの無添加・無着色の製法で、カビの生えない梅干を生産している。日にちをかけて天日干した梅しその一部を、障害福祉サービス事業所に渡し、梅しその加工作業を委託している。

こんな仕事を委託しています

⑫ 干し芋の場合

【主な仕事内容】 ● 栽培・収穫・加工・出荷調整

**(株)大地農産**富山県黒部市田家新1846番地
電話 / 0765-52-5301【URL】<http://www.daichinousan.com/>**農業MEMO** 干しいもづくりの工程の一端を委託し、販路拡大に成功

さつまいもを干す前の下準備

蒸し上がった干しいもをスライスして、一枚ずつ専用の網の上に並べていく。

甘みの強い蜜いも「紅はるか」を使用した、低音熟成の干しいもを生産・販売している。春には3万本のいもを植え、無農薬で栽培。秋の収穫後は60日間寝かせてデンプンの糖化によって甘みを引き出す。

直接販路を開拓し、6次産業化に成功。県内だけでなく、全国各地から多くの注文を受けている。

干しいもの袋詰めやシール張りなどの工程の一端を、障害福祉サービス事業所に作業委託し、効率化を図っている。

**農****障害のある人と「農業を連携」して良かったこと**

2~3年前に「社会福祉法人 野の草会 こもればの里」さんから紹介を頂いて以来、NPO法人 b-らいふさんに梅しその加工業務を委託しています。お店の在庫状況に応じて出荷する分量も日によって変わりますが、柔軟に対応してもらえるので本当に助かっています。

能力に応じた仕事の割り振りを施設の方がやって頂いているので、商品の精度も高く、信頼してお任せしています。細かい仕事で大変な作業だとは思いますが、根気強くやってもらっています。当社だけでは人手不足で対応できなかった作業を担ってもらっています、通年で作業を依頼することでお互いがWin-Winの関係になれていると感じています。



氷見稲積梅加工場

**農****障害のある人と「農業を連携」して良かったこと**

6次産業化が進んで人手が足りなくなってきた時に、新川農林振興センターのマッチングがきっかけで「NPO法人 工房あおの丘」さんに委託することになりました。生産から加工まですべてを社内で完結させることは難しく、今後事業を広げていくためには、工程を細分化して一部分を委託することが必要です。実際にスタートしてからは当社の負担も減り、大変助かっています。

障害のある方にも、どういった仕事で活躍してもらえるかを考えて発注するようにしています。出荷調整された干しいもは「工房あおの丘」さん独自のルートでも販売してもらっているため、今では私たちに欠かせないパートナーになっています。



会社に併設している直売所では、期間限定で販売している。

障害福祉サービス事業所での作業の進め方と、障害のある人が作業する際のポイント

NPO法人 **b-らいふ**富山県氷見市幸町4574 電話 / 0766-54-0530
【URL】<https://www.b-life-toyama.jp/>**しそ粉(ゆかり)の加工・出荷調整の場合**

【作業内容】しそ粉の加工からパッケージングまでを一貫で請け負う。



ビンセットで茎や葉脈を取る

梅しそから、茎や葉脈などを取り除く。



瓶詰め・袋詰めをしてシールを貼る

ミキサーで一定の細かさにした後、計量して、袋と瓶にそれぞれ詰める。

- かたまりになった梅しそを崩して、茎や葉脈などを取り除く。衛生面を考慮して、手袋をつけピンセットで一つひとつ丁寧に扱う。
- しそ粉は、ごはんやバスタに振りかけるため、ミキサーにかけるときには、ある程度の粗さを保つことがポイント。途中で止めながら、何度も確認をして微調整を繰り返す。

障害のある人が作業する際には

集中して行う作業が多いので、体に負担をかけないために作業は主に座って行う。葉脈などを取り除く作業は、洞察力と判断力に長け、手先が器用な人に向いている。ミキサーでの粉砕作業も障害のある人が担当。「粗さ」が商品のポイントとなるため、最終的な確認はスタッフが行うようにしている。

【作業に適した人】細かい作業が得意な人
判断力のある人

障害福祉サービス事業所での作業の進め方と、障害のある人が作業する際のポイント

NPO法人 **工房あおの丘**富山県下新川郡入善町道古34-3 電話 / 0765-72-2248
【URL】<https://www.aonooka.jp/>**干し芋の出荷調整の場合**

【作業内容】干しいもを計量・袋詰めし、出荷できる状態に完成させる。



選ばれた干しいも計量する

届いた干しいもを計量し、決められた重さに合わせてトレーに乗せていく。



袋にシールを貼り、袋詰めする

袋の指定の場所に商品シールを貼り、干しいもを丁寧に袋詰めしていく。

- 「工房あおの丘」では、1日平均30名の障害のある人が出勤し、各々の作業に従事している。そのうち、多い日で7~8人が干しいもの作業に携わる。干しいもは柔らかく、くつきやすいため、一枚ずつ扱いに注意を払いながら、黙々と作業をこなす。

障害のある人が作業する際には

商品ごとに大きなバラつきが出ないように、重さを正確に測ることが求められる。ミスを防ぐために、数字を明記した紙を貼り、いつでも作業担当者が確認できるようにしている。密封する前にはスタッフが、重さに間違いがないか、きれいに並んでいるかなど、最終確認を行う。

【作業に適した人】正確に測れる人、
根気強く丁寧に仕事ができる人

受委託契約の流れ

障害福祉サービス事業所が自ら農業を行ったり(パターン①)、農家・農業法人等が直接障害のある人を雇用したりする(パターン②)よりも、障害福祉サービス事業所が「施設外就労」という形で農作業等を農家・農業法人等から受託(パターン③の1形態)の方が比較的容易に連携できます。

「施設外就労」について

- 1 農家・農業法人等と障害福祉サービス事業所とが、請負契約を結びます。
(業務の一部を障害福祉サービス事業所に委託する形態です。)
- 2 障害福祉サービス事業所を利用している障害のある人が、農家・農業法人等へ出向き、委託された業務に従事します。
(障害福祉サービス事業所の職員が同行します。障害のある人への指示や指導は、障害福祉サービス事業所の職員が行います。)
- 3 農家・農業法人等は、契約に基づき、障害福祉サービス事業所に委託料を支払います。
(障害福祉サービス事業所に支払われた委託料を元に、障害者に工賃が支払われます)



受委託契約の形態としてはこの他に、障害福祉サービス事業所が農作業を農家・農業法人等から受託した作業(農産物の袋詰め等)を、障害福祉サービス事業所内で行う、「施設内就労」もあります。(①氷見稲稈梅(P27)、②大地農産(P28)を参照)

農福連携を応援します！

富山県社会就労センター協議会の「農福連携コーディネーター」が、農家・農業法人等と障害福祉サービス事業所のマッチングを支援します。(連絡先は、裏表紙参照)



農福連携をお考えの方は、お気軽にご相談ください